

授業概要

この授業では、冊子体のレファレンスツールを使った探索方法を体系的に習得し、情報や文献探索能力を身に付けることを目的とする。そのため、レファレンスツールについて基本的な知識を学び、具体的なツールを使った演習を指導する。

演習では、割り当てられた模擬質問に対して各自調査を行い、調査結果について簡潔にまとめ、発表を行うものである。

授業計画

第1回	レファレンスサービスとは
第2回	情報探索の技法
第3回	レファレンスブックの情報源
第4回	言語・事物・概念情報の探し方（1）探索方法とツール紹介
第5回	言語・事物・概念情報の探し方（2）発表と解説
第6回	人物・企業・団体情報の探し方（1）探索方法とツール紹介
第7回	人物・企業・団体情報の探し方（2）発表と解説
第8回	地理・歴史情報の探し方（1）探索方法とツール紹介
第9回	地理・歴史情報の探し方（2）発表と解説
第10回	図書情報の探し方（1）探索方法とツール紹介
第11回	図書情報の探し方（2）発表と解説
第12回	新聞・雑誌情報の探し方（1）探索方法とツール紹介
第13回	新聞・雑誌情報の探し方（2）発表と解説
第14回	レファレンスインタビューの技法と実際（1）インタビューの実施
第15回	レファレンスインタビューの技法と実際（2）発表と解説
第16回	総括

到達目標

様々なレファレンスツールについての知識を深め、それらを使った情報探索及び回答ができるようになることを目標とする。

履修上の注意

「情報サービス論」を履修済みであることが望ましい。また、この演習では図書館での作業や、授業時間外での作業を要する。

遅刻は授業開始 30 分までとし、それ以降は欠席と見做す。

予習・復習

担当問題の実施をもって、授業の復習とする。

評価方法

記録票 60%

発表 20%

課題プリント 20%

テキスト

『情報サービス演習』ミネルヴァ書房 2017 年 1 月 中山愛理編著 ISBN978-4-623-07836-3

授業概要

情報サービスのうちの重要な技術である情報検索について、その概要、必要な機器、手法、検索対象となる情報資源に関する実践的な理解を目指して指導します。

おおむねテキストに沿って進行します。

授業計画

第1回	イントロダクション
第2回	データベースと情報検索の復修 1.論理演算、部分一致、検索戦略の立て方、検索語の選定
第3回	データベースと情報検索の復修 2.評価、再現率と精度、ノイズとモレ
第4回	演習 人物略歴 1.データベースの構造と検索戦略
第5回	演習 人物略歴 2.演習と回答例
第6回	演習 人物略歴 3.実際のデータベースでの情報検索
第7回	演習 雑誌記事 1.データベースの構造と検索戦略
第8回	演習 雑誌記事 2.演習と回答例
第9回	演習 雑誌記事 3.実際のデータベースでの情報検索
第10回	演習 図書内容 1.データベースの構造と検索戦略
第11回	演習 図書内容 2.演習と回答例
第12回	演習 図書内容 3.実際のデータベースでの情報検索
第13回	演習 新聞記事 1.データベースの構造と検索戦略
第14回	演習 新聞記事 2.演習と回答例
第15回	演習 新聞記事 3.実際のデータベースでの情報検索
第16回	発表とまとめ

到達目標

図書館員の職務につくことを前提に、次のことの実践的な理解を目指します。

1)データベースの基本的な構造と種類、2)情報検索の基本的な技法、3)ネットワーク等を通じて公開されているデータベースの利用。

履修上の注意

司書課程の中でも応用的な科目になります。履修にあたっては、基礎的な科目の理解が求められます。原則として「図書館概論」および「情報サービス論」が履修済であることを前提とします。事情のある方は事前にご相談ください。

授業中の発言を歓迎します。質問や話題提供など、積極的な参加を期待します。

予習・復習

各自に異なった課題を示し、それに対する回答を個別に求めます。各自で作業を進めてください。

講義中に出た新しい用語について、自ら説明ができるまで確認をしてください。

授業中に終えられなかった課題は、次回までにおこなっておいてください。

評価方法

演習課題と口頭説明(40%・必須)と課題レポート(40%・必須)を主とします。それに授業への貢献(議論への積極的参加など)および自由提出のレポート(20%)を加えて評価します。

テキスト

(必携) 田中功ほか編著. CD-ROMで学ぶ情報検索の演習. 新訂4版, 日外アソシエーツ, 2013, 87p., ISBN978-4-8169-2393-7.

このほか参考とすべき資料を講義中に紹介します。また、必要に応じて資料を配布します。